利用者・家族を支援する専門性の確立

企画／日総研グループ 発行／日総研出版©
隔月刊誌 達人ケアマネ 第6巻 第6号
平成24年8月31日発行（偶数月の末日発行）

達人ケアマネ

Expert Care Manager

【会員制 隔月刊誌】

2012 8・9 月号

特集

ケアマネジャーを導く，育てる，支える
スーパーバイザーとしての能力を高める

- スーパーバイザーが果たすべき3つの機能
- 主任介護支援専門員に必要なスーパーバイザーのあるべき姿
- 私なりに目指しているバーンアウトを防ぐスーパービジョン
- 地域で行うグループ・スーパービジョンの実際
  ～グループ・ダイナミクスに焦点を当てて
- 利用者が自ら死を選んだケースでの
  ケアマネジャーへのスーパービジョン

新 連載

実践！ サービス担当者会議

暮らしを支える
住宅改修のポイント

日総研

シリーズ 地域を支える

取材／日総研グループ

やぐらPOTS筥松（はこまつ） ◆福岡市東区

短時間デイで介護予防ニーズに応える

株式会社仁コーポレーション 取締役会長 仁泉（にいずみ） 浩（ひろし）さん

やぐらPOTS筥松 センター長 勇（いさみ） 雅文（まさふみ）さん

POTSブランドマネジャー 山本昌湖（やまもと まさおみ）さん

通所系サービスの利用者の状態像は一律ではなく，そのニーズも多様である。措置から介護保険になってからも，サービスを希望するさまざまな状態の利用者を，すべて１つの事業所で対応できるという前提でサービスの調整が行われていた。しかし昨今では，特にデイサービスの事業所数が多くなってきており，利用者の状態や希望に応じて特徴のある事業所を選びやすくなってきている。

2012年度の介護報酬改定においては，利用時間の枠組みが変更となり，サービス時間の設定が変更となった。家族が日中不在の場合に，長時間のサービスのニーズに応えやすくなった。一方で，１日中デイサービスにいることを好まない利用者層も確実に存在する。実際に，短時間の機能訓練に特化した通所系サービスの事業所が増えてきている。そうした短時間・機能訓練特化型デイサービスの一つである「やぐらPOTS筥松」を取材した。

スタートから3年での事業所展開

やぐらPOTS筥松は，「やぐらもんグループ」のデイサービスで，2012年６月に福岡市東区社領にオープンしたばかりである。「やぐらもんブランド」を展開するのは，株式会社仁コーポレーションだ。取締役会長の仁泉浩氏は，金融機関やアパレル商社の海外事業部勤務を経て，29歳で社会福祉法人経営の世界に入り，救護施設の施設長となった。福岡県婦人保護・救護施設協議会会長として，アルコール依存症，覚醒剤依存症，ホームレスの自立支援，DV被害者の救護など，従来の役割を超えた新しい救護施設のビジネスモデルを構築した。その後，福岡県社会福祉施設経営者協議会協議員，同・組織強化委員，全国厚生事業団体連絡協議会協議員，福岡県ホームレス自立支援推進協議会協議員などを歴任。退任後，NPO法人セーフティネットNeedsMe理事長に就任。2009年に株式会社仁コーポレーションを設立し，取締役会長となっている。

機能訓練室は
事務室からガラス越しに
見えるようになっている。

シャワールーム
入浴サービスはないが，シャワールームはある。特に夏場には必要な設備。

仁コーポレーションは，スタートからわずか3年で，事業を次々と展開している。2009年に，福岡市博多区祇園町（旧矢倉門町）で，医療法人護健会から宮原医院デイサービスセンターを譲り受け，「デイサービスやぐらもん」を開設した。デイサービスやぐらもんは，市街地の中心部にあり，規模は大きくない。それでありながら，活動のメニューが多岐にわたり，それぞれが本格的であるということから，業界誌でも取り上げられるようになり，地元のケアマネジャーからも「楽しいデイサービス」として評価が高まった。

2010年に，福岡市東区の医療法人陣内整形外科内科医院の2階に「デイサービスやぐらもん筥崎センター」を開設した。2011年には，プロデュース店（非直営）として，埼玉県に「デイサービスBLUE」をオープンさせ，2012年4月には，福岡市博多区の「デイサービスにこリハ」をプロデュースした。

要介護者の介護予防というニーズ

やぐらPOTS筥松は，食事や入浴などは提供しない。短時間で機能訓練に特化したデイサービスだ。新築の2階建てで，1階は53.7平米の機能訓練室があり，2階は本社経営企画室となっている。やぐらPOTS筥松の玄関を入ると，すぐ事務室があり，事務室から機能訓練室がガラス越しに見えるようになっている。機能訓練のベッドとウオーターベッド，各種マシンがあり，一番奥にサンドバッグがある。風呂はないが，シャワーが設置されている。実は，仁泉さんが，やぐらPOTS筥松の新規オープンの営業でケアマネジャーを訪問したところ，5人中3人から「夏場は運動すると汗をかくからシャワーがあるとよい。大体は自分でできる方だから介助は必要ない」と言われ，建築申請直前だったが，急遽設計を変更してシャワールームを設置したという。

定員は17人で，要支援1から要介護4までの利用者がいる（**表**）。

表　当事業所の概要

定員：20人
〈利用者像〉平均年齢：81.7歳
男女比：男性37%，女性63%
主な疾患と介護度：要支援1から要介護4まで
要支援1　4.6%，要支援2　10.0%
要介護1　49.1%，要介護2　10.8%
要介護3　21.1%，要介護4　4.4%

〈職員総数および職種ごとの人数〉
職員総数：10人
管理者　1人，言語聴覚士　1人
理学療法士　1人，看護職　2人
介護職　4人，生活相談員　1人

〈併設施設・サービス〉
なし

やぐらPOTS一日の流れ

午前の部	9：30～12：45
午後の部	13：30～16：45

ティータイム／バイタルチェック
のびのび体操／それぞれの機能訓練
ティータイム／振り返りミーティング
お帰りの送迎

洗濯ばさみ
狙った所に手を動かす，つまむという２つの動作に，抵抗を加えて同時に行うための訓練道具で，山本さんが考案した。手指の対立運動（つまむ動作）は，脳の感覚運動野を賦活させると言われている。

「前期高齢者で要介護となっているものの，認知症などは見られず，入浴などは自宅でできるので，今の生活を維持するために筋力をつけておきたい」というのが，やぐらPOTSの典型的な利用者像のようだ。仁泉氏は利用者の要介護度について，「もう少し要支援の方の比重が高いと想定していたが，実際には想定以上に要介護の方のニーズがあった」と言う。機能訓練特化型デイサービスの供給量が，介護予防サービスについては需要に対してほぼ十分になりつつあるのに対して，介護サービスについては，まだまだ供給不足であるというのが福岡市内の現状のようだ。

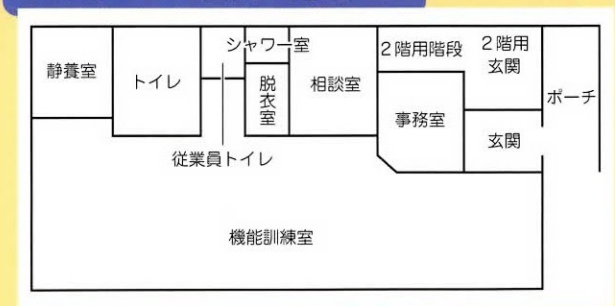
「最近は福岡市でも短時間型のデイサービスが増えています。コンビニの跡地で初期コストをかけないで開業するものがある一方，フィットネスクラブのような豪華な内装の事業所もあります。マシンが全くない所と，マシンを『これでもか』とそろえている所と両極端であるように思います。介護は専門的な技術と共に提供するサービスであり，それがあって初めて利用者の期待や要望に応えられると思っています。そのためには，必要な機械はそろえる。しかし，機械ばかりにお金をかけずに，リハビリテーションの専門職をきちんと配置することが必要です」と仁泉氏は言う。

機能訓練にサンドバッグを導入

仁泉氏は，やぐらPOTSを展開する上で，作業療法士である山本昌湖氏を「POTSブランドマネジャー」として招き入れ，機能訓練プログラム全般を任せるようにした。やぐらPOTS筥松で，

足で操作するピンボールマシン
かかとを床に着けて，足指でゴムを引っ張って，ボールを打ち出す。足指に抵抗を加えて鍛える器具は，既存のマシンにはないということで，山本さんが製作した。これは，ゲーム性があって楽しめるというのがポイント。

やぐらPOTS筥松の見取り図



サンドバッグ

下肢の運動機能，特に足指の力を付けるためのサンドバッグを使ったトレーニング。蹴る時には，片手でつかむ手すりを設置し，安全に配慮している。

アブダクション・アダクション

骨盤の安定性を高め，歩行や片足立ち時のふらつきをなくし，転倒予防につなげる。

ローイング・レッグプレス

広背筋，菱形筋を強化し，円背を予防するローイングと，下肢筋全般の筋肉を強化するレッグプレスの機能があるマシン。

ウオーターベッド
筋肉の過剰な緊張をほぐすためのウオーターベッド。これに横になるとゆらゆらして気持ちが良く，利用者の評判も高い。ただし，価格は200万円以上するので，決して安いものではない。

エルゴメーター
膝や腰に負担なく，有酸素運動ができるマシン。大腰筋が鍛えられるので，やはり転倒予防につながる。

どのような訓練を行うのか，マシンは何を置くのかについては，山本氏がプロデュースしている。「介護予防で大切なのは転倒予防です。身体機能は手先・足先から退化していきますから，その退化を食い止めるために何ができるかを考えました」と山本氏は言う。

訓練に先立って，筋肉の緊張をほぐす必要があるということで，ウオーターベッドを導入した。これで筋肉が緊張過剰とならないようにしてから訓練することで，より安全で効果的なトレーニングになる。

歩く時に，加速する，止まるという動きに必要なのは，足裏だけではなく，足指が重要な役割を果たしている。加齢に伴い，いわゆるベタ足歩きになり，足指を使わなくなってしまう。すると，足指の機能が衰え，歩いていて止まろうとした時にブレーキが効かないということになる。そうなると歩くことが怖くなり，大きく一歩を踏み出すことができず，体のバランスが前屈みになってしまう。まずは，足指でしっかりと地面をとらえてしっかり歩くことが大切で，それを維持していくことが転倒予防につながる。

ウオーターベッドは，クリニックが併設されているデイケアなどに行くとたまに見かけることはあるが，サンドバッグについては，デイケア・デイサービス共にあまり見かけない。

サンドバッグをパンチするのは，一見すると上肢の運動のようだが，パンチするのと同時に足も加速し，止まるという動作が伴う。足でしっかり地面をつかむ機能を維持するための訓練でもある。しかし大事なのは，「『いかにもリハビリをしています』ではなく，本人がストレスを発散し，楽しみながらできること」と山本氏はサンドバッグを導入した理由を説明した。

サンドバッグを叩くのは，男性利用者が好みそうだと思ったが，そうとは限らないそうだ。「今度は蹴ってみましょうか」と言うと，思っていたよりも足を高く上げ，力が入って白熱してくるのは，むしろ女性の方だと山本氏は言う。

それぞれのニーズに応える ブランド戦略

やぐらPOTS筥松の利用者には，認知症の人はいない。それは，ケアマネジャーが「こういう利用者ならここ」と事業所を選んで利用者に

紹介するからであり，認知症の人を断っているわけではない。しかし，さまざまな利用者のニーズに応える事業展開は必要となろう。

仁コーポレーションでは，認知症を含めた従来型の通所介護を「やぐらもん」，短時間の機能訓練特化型を「やぐらPOTS」で展開し，さらに今後，短時間入浴サービス型を「やぐらSPA」として展開していく予定だという。なお，短時間入浴サービス型は，古い団地などに住んでいる利用者が，身体機能の低下によって，自宅の風呂場が狭い，浴槽のへりが高くてまたぐことができないなどで入浴できなくなったが，訪問入浴サービスを依頼するほどの重度ではない場合のニーズに応えるためのものである。やぐらSPAは，2012年10月にオープン予定として進めている。

「今後は，機能訓練の状況を動画で撮影し，利用開始直後と現在の状態を比べて，身体状況の変化が分かるようにしていくことも考えている。サービス担当者会議において，タブレット端末を使って見える形で説明していくことで，事業所側から情報発信していきたい。ケアマネジャーだけでなく，例えば，訪問介護を行っている事業所にとって，こうした情報が訪問介護計画を作成する際に参考になるはず」と，仁泉氏は今後の計画を語った。

「介護予防」という言葉は，2006年度の介護報酬改定の際にキーワードとなったが，その後はあまり耳にしなくなった。しかし，団塊の世代が次々に65歳に達しようという今日，「介護予防」は大きな課題となることは間違いない。利用者にはさまざまなニーズがあり，それぞれのニーズに応える形で特徴のあるサービスを提供することがデイサービスに求められている。

（文責／小笠原達哉）

事例を使ったグループワークで気づいてもらう

訪問介護事業所内研修の進め方 演習型

田形隆尚氏 田形社会福祉士事務所 代表

1962年生まれ。特養、デイサービス、居宅、老健などの管理者を経て独立。現在、大学をはじめ、各専門学校の講師、ケアマネ実務研修講師、第三者評価調査員、介護認定審査会委員、ヘルパー養成研修講師、NPO法人理事などを兼務。リスクマネジメントの造詣が深く、施設や通所、在宅向けの指導や研修も行っている。具体的な資料を使用しての解説が理解しやすいと好評。

東京 12年 9/23（日） 10:00〜15:00 フォーラムミカサ エコ

名古屋 12年 12/15（土） 13:00〜17:00 日総研G縁ビル研修室

大阪 12年 12/16（日） 10:00〜15:00 田村駒ビル

参加料／共に税込
本誌購読者 10,000円
一般 13,000円

※テキストとして、最新刊の講師書籍『暴走ヘルパー改造計画』を使います。
当日会場にて販売致します。
東京（9月）、名古屋（12月）、大阪（12月）については事前購入も承ります。

プログラム ★13352

1.訪問介護事業所のリスクとヘルパー教育の重要性
1）社会人・組織人としての常識
2）介護従事者としての倫理
3）そもそも介護保険サービスとは
4）介護技術の標準化
5）「医療行為」への正しい認識と危機対応

2.事業所内研修はどう進めていけばよいか
1）研修計画の立て方
2）研修を有益なものにするコツとテクニック

演習 ※講師の7月近刊『暴走ヘルパー改造計画』を使い事業所内研修の演習を行ってみましょう

3.スーパービジョンの実際
●SVの視点を持つことの重要性
●自ら気付いてもらえる言い方、指導法

スーパービジョンの視点を持つことの重要性 自ら気づいてもらえる言い方、指導法が分かる

13352

訪問介護の現場はヘルパーと利用者だけの密室であり、さらに登録型・直行直帰での勤務形態が多いこともあり、訪問介護事業所は他の介護サービス以上に様々なリスクを抱えています。利用者との距離が不適切、サ責への報告を行わずに勝手に突き進むといった暴走は止めなくてはいけません。しかし「ヘルパーを募集しても集まらない状況で、強く言って辞められたらどうしよう」という不安があります。そこで、事業所内研修という形で、事例を参考にしながら気づいてもらう、効果的な方法を提案します。

講師の著書は26ページ